

## 酒池肉宴

～入来薪能のポスター貼りバイトで  
よみがえる鹿大生時代のよき思い出～



串田 達治

令和四年秋号の炉ばたセイ談にて、平成二十三年に不慮の事故で亡くなった祖母の葬儀後におけるかなり衝撃的なエピソードを紹介してしまったので、もう二度と原稿依頼など来ないだろうと思っていたのだが、先日（令和五年六月三十日）祖母の十三回忌の法要で久々に入来を訪れた際に母からまた次回もユニークな原稿よろしく！と頼まれてしまい、逆にハードルが上がりすぎて困惑している。あれ以上のネタなんかあるわけか・・・

まあぼやいても仕様がないので昔のアルバムなんかを引っ張り出したりしてあらためて過去を振り返ってみると、やはり私と鹿児島を結びつける一番の思い出はサークル活動に熱中した学生時代であり、かれこれ四十年の人生の中で最も熱く、且つちゃらんぼらんな時間を過ごしたと断言できる。ちなみに私の妻はサークル時代の二学年下の後輩にあたる。

今から二十年以上前の梅雨が明けるか明けないかくらいの気だるい時期、今回の物語は入来に住んでいた祖母から例の特徴的な高い声で突然電話がかかってきたところから始まる。

「もしもしくたつちゃん？久しぶりね。ちよつとお願いがあるんだけど」

・・・・・・・・・・・・・・・・

高校を卒業するまで地元香川でのんびりうどんを食べて過ごしてきたが、大阪で一年間の予備校生活を経た後、サブタイトルにもあるように平成十三年に鹿児島大学農学部は無事合格し、以後数年間市内を流れる甲突川を眼下に見下ろせる高麗町のアパートで一人暮らしをしていた。

地元の友人らは揃って関西、関東方面に進学したため当然まわりには知り合いどころか四国出身者自体皆無であり、不安な気持ちで慣れない校舎の中をひとりウロウロしていると先輩と思しき綺麗なお姉さんに声をかけられ、そのまま新入生歓迎会場に拉致された。

連れて行かれた先は音楽系サークルが集まる一角で、案内された場所の立て看板には「鹿大混声合唱団ポリフォニー・コール」と書かれてあった。二年後に創立五十周年を控えた総勢六十名を超える鹿大でも有数の大規

模サークルらしい。当然無理やり連れてこられたのでこのサークルに対する私の第一印象はあまりよろしくなかったのだが、活動の説明を聞きながら諸先輩方から飲み物やお菓子などの過剰な接待を受け、その日の夜は大学近くの喫茶店でご馳走になり、その後カラオケで楽しい時間を過ごしているうちにだんだんと居心地がよくなってしまい、そのまま居ついてしまった。

と、こんなことはどこの大学の新歓時期にもよくある話で、テニスサークルみたいに何もしなくても勝手に人が集まってくるようなイケてるサークルとは違い、合唱なんかは特に男性はほとんど寄ってこないなのであの手この手を使って簡単に騙せそうな新入生に狙いをつけるのだという裏話を入部後に自分を拉致した女先輩から聞かされた。

二年生になって今度は自分たちが哀れで

無知な獲物を狩る側になり、途中退部者を出さないよう新入生に気を使いつつ役員である三年生たちにこき使われる日々を過ごす中で、それなりに自分のサークル活動に対する頑張りが認められ、次期部長候補として庶務局長という役職を仰せつかっていたが、何のことはなく要するに部の雑用係であった。

そんな夏の合唱コンクールに向けて桜島の灰と戦っていた七月頃だったかと思うが、入来に住む祖母から突然電話があった。何でも九月頭に川内市総合運動公園で開催される薪能の宣伝ポスターを市内の掲示板に貼るのを手伝ってほしいという内容だった。

当時ほとんど入来に遊びに行けてなかったことを申し訳なく思っていた折だったので二つ返事でそのポスター貼りのバイトを引き受けた。残念ながらバイト代は出せないが、手伝ってくれた人には城山観光ホテルの朝食

バイキングに招待してもらえんという特典が大きな決め手だった事は言うまでもない。

近々祖母が薪能関連の用事で市内まで出てくるとの事だったので、県文化センター前で待ち合わせをしてポスターを受け取る事になった。西郷隆盛銅像を背に祖母を待っていると、見覚えのある軽自動車が今まで見たことがないようなおそろしいまでの低速で私に近づいてきた。きれいに折りたたまれたサイドミラーにしばらく目を奪われていると開いた窓から祖母が笑顔で手を振るのが見えた。  
 ……この状態で入来峠を越えてきた…  
 だど？

久々に会って興奮気味に薪能開催に向けて宣伝活動を頑張っていると熱く語る祖母の姿がとても輝いて見えた。対照的に学業をおろそかにし、好き勝手ばかりやっている孫の姿は祖母の目にどう映っただろうか。

それはともかく、運転に支障が出て危険極まりないので別れる際にサイドミラーを開くよう指摘すると、例のいつものテンションで「あらほんと。全然気づかなかったわくおほほほ」

と笑いながら何故カリアワイパーを作動させつつ来た時と同じようなノロノロ運転で去って行ってしまった光景は印象的すぎて今でもよく覚えていて。車が見えなくなるまでしばらく観察していたが、残念ながらその後ミラーが開かれることはなく、そのまま照国通りの方へ姿を消してしまった。

当時多数の後輩がいたおかげでポスター貼りのバイトは合唱練習終わりから始めて一日で無事完了した。手伝ってくれた後輩たちと城山観光ホテルの朝食バイキングをととても楽しみにしていたのだが・・・

なんということでしょう！直前に悲劇が

起きてしまった。

朝食バイキングに招待された数日前だったかと思うが、飲み会の席で鳥刺しにあたってしまったのだ。

香川ではまず見かけない鳥の刺身というものが珍しくて栃木出身の同級生とふたりで大量に食べてしまったのがよくなかったらしく、二人とも間もなく嘔吐下痢を発症した。一緒の席にいた地元民がみんな無症状だったのはやはり体内にある程度抗体があったからなのだろうか。

今でも思い出すとゾツとするが、高熱のためフラフラな状態で鋭い下腹部の痛みと吐き気とが一気に襲ってくるのだ。一晚中上からも下からも突き上げてくるあの恐怖はそれまで経験した腹痛の中でもダントツで辛かった。朝食バイキングに招待された当日は祖母と面識のない後輩たちだけで向かわせるわけ

にもいかず、市販の下痢止めと途中にあるコンビニトイレをうまく利用しながら自転車ですぐにかこうにか城山の坂道を登り切った。

当時ホテルの支配人の方？と祖母が懇意にしていたらしく、わざわざ挨拶に来られたり、祖母が薪能関係者らに私を紹介してくれたりしたのだが、当の本人は下腹部を氣遣いつつ必死でトイレの位置を探していたのでかなり適当な受け答えをしてしまった不本意な記憶がある。

あんなに楽しみにしていたのに！朝から肉が食えるって最高です！先輩とかほざいてくる先輩をしばらく元氣もなく、ただ目の前の豪華なバイキングメニューをなるべく視界に入れないようにしながらただホテルにトイレを借りに行っただけになってしまった。体調が万全ならローストビーフを盛り付けるホテルの女性スタッフが女神に見えたはずなの

だが・・・この仕打ちはひどすぎます！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ところがどっこい、人生苦あれば楽ありとはよく言ったものでホンモノの肉の女神様は半年遅れで私に微笑んでくれた。

年が明けて平成十五年一月十八日、私の所属していた合唱団の第四十九回定期演奏会が無事終わり、その打ち上げの幹事が庶務局長である私だった。

血の氣の多い学生たちの打ち上げ場所に選んだのは市内与次郎にある焼肉店であった。団員が総勢六十人プラスOB・OG合同ステージに出演して頂いた諸先輩方もお呼びしていたので集金するのも一苦労。演奏会をやり切った安堵感と疲労感とで意識が朦朧としながらも、無事支払いを終えるまでが自分の仕事だと思い、最後まで気が抜けなかった。

団体客の会計だったからか、レジにて店員さんから財布に入りきらないほど大量のクーポン券をもらい、店をあとにした。

一月後半にある定演が終わってしまえば大学生にとっては無駄に長い春休みを残すのみ。相変わらずグータラしながら三月後半に至り、近所のスーパールのお惣菜にも飽きてきた頃、そういえば焼肉屋のクーポンが大量にあったことを思い出し、バイト代も入ったことだし久々に月曜から贅沢しようと思いの軽い気持ちでバックからクーポンを探した。

よくファミレスなんかであるドリンクサービス券のようなものだろうと思っていたその「クーポン」。

よく見るとクーポンにしてはかなりしっかりとした紙質のその「クーポン」。

ファーストドリンク無料（ただし他の券との併用はできません）などというお決まりの

文言が書いてあるはずのその「クーポン」。

・・・？その店で使える金券じゃないか・・・  
若干取り乱しながら店に問い合わせるのと、  
どうも一月いっぱいには創業何周年とかの大キヤンペーン中だったらしく、会計時に支払った食事代の半額分が商品券（その店舗の全てのメニューに使用可）としてキャッシュバックされていたのだった！しかも有効期限は三月末まで。確か残り一週間ほどだったかと思う。

その時になって思い返してみると、そういうえば「半額還元セール中」と書かれたのぼりが店舗敷地にたくさん翻っていたような気がしないでもないが、とにかく打ち上げを無事終わらせることで頭がいっぱいで、そういうキャンペーンが実施されていた事など全く思いもしていなかった。

このあたりから何故か急に記憶が定かで

なくなるのだが、仮に部員六十名のうち、打ち上げに参加した人数が四十名ほどだったとして。OB・OG・顧問の先生方を含めると少なくとも総勢五十人強。焼肉食べ放題・飲み放題の費用がひとりあたたま五千円だったと仮定すると、手元にあつた金券は約十三万円分だったという計算になる。

これはやばい・・・一刻も早く打ち上げに参加した部員全員に配らなければ・・・と心の中で思いつつ、ただ春休みに入って県外に帰省している部員も多く、四年生にいたってはすでに卒団式を終えていたので所在も定かではない。さらに悪いことに打ち上げ出欠名簿自体捨ててしまっていた。

・・・どうしよう・・・仮に今から郵送したとしても期限が切れそうな金券を送りつけたりすると逆にみんなから怒られる・・・  
 ・・・でもこのまま何もせず期限が切れて

しまったら超もつたいたい・・・  
 ・・・どうにかしなければ・・・  
 ・・・考えろ・・・考えろ・・・  
 ・・・というわけでその日から連日連夜の焼肉パーティーが必然的に開催されてしまった。

ただ、自分だけでクーポンを独り占めするのはさすがの私でも気が引けたため、鳥刺しにあつた同志でもある例の栃木出身の同級生と、敵に回すとおつかない次期マネージャーのふたりだけを誘って共犯者に仕立てた。  
 とりあえずそのクーポンが本当に使えるかどうかまだ半信半疑だったため、初日は学生向けの焼肉食べ放題コースを選択。何かあっても自腹で対応できるようにしていたが、会計時あっさり全額そのクーポンが使えてしまった。

狂喜乱舞したい気持ちを抑えつつ、二日目

は食べ放題コースなどというお得な邪道メニューを無視し、ふだんは手が出ない特上カルビ・特上ロース・上ネギタンなどを単品で注文しつつ、ちゃっかり飲み放題をつけた。

昨日ここで食べたあの肉はなんだったのかと思うほど特上の品々は絶品だった。

翌日もまったく同じコースで贅沢しつくしたが、十何万円分の金券というのは思ったより減らない。

そろそろ特上肉も飽きてきたよね〜と他の客が聞いたら憤慨しそうなセリフを吐きつつ四日目の今日は海鮮しぼりで!と、いきなりズワイガニを注文して店員を嘩然とさせたりました。

あれから二十年以上たったが、思い出すたびにほんわかする本当にいい思い出だ。

そろそろ結びになるが、当時の関係者の皆

様、本当に申し訳ありませんでした!!!

(炉ばたセイ談庵主の初孫)

